



ネイチャーなら

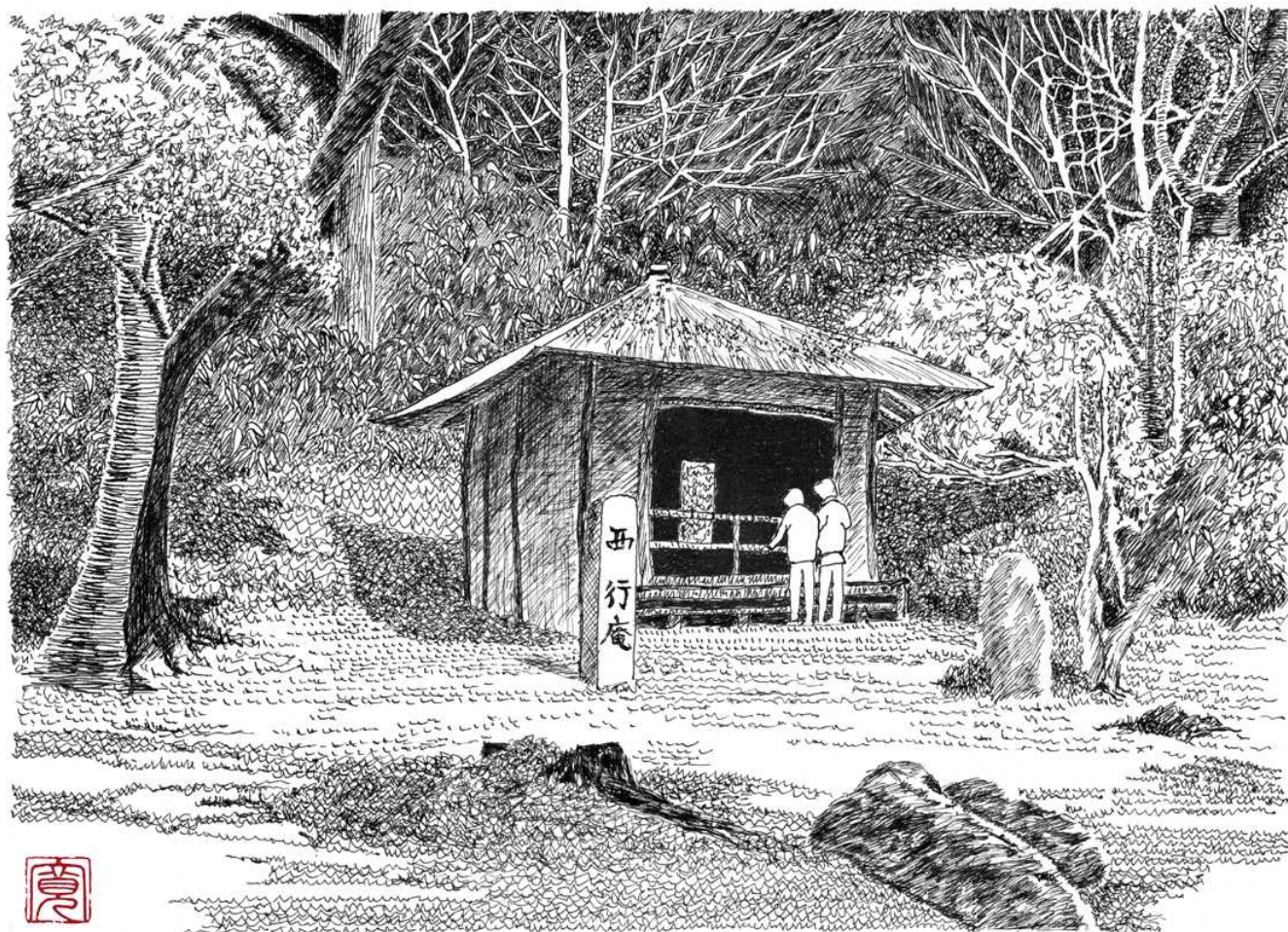
《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2014年2月1日

2月号・第145号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



Contents

会報紙はカラーでホームページに掲載しています。
URL <http://www.naranature.com>

多土済々.....	①	青垣春秋.....	⑩
Monthly Repo.ならやま.....	②	俳句百景.....	⑪
里山の今.....	③ ④	癒しの散歩道＆ならやま茶論.....	⑫
Galleryならやま.....	⑤	ならやま景観整備.....	⑬
新春初出式＆奈良学クイズ.....	⑥	行事案内.....	⑭
自然教室チームだより.....	⑦ ⑧	幹事会報告・ペン画に寄せて.....	⑮
やさしい昆虫講座④⑩.....	⑨	奈良学クイズ続・編集後記.....	⑮



いつも どっしり 川井秀夫さん

「奈良・人と自然の会」の創設者であり、初代会長として「会」の基礎を築かれ現在に至る最大の功労者です。現役として元気で活躍です。

その草創期、それぞれ一家言ある“つわもの会員”を取り纏め、幅広い自然のジャンルの中で進路を定めてゆく、大変な苦労があ



った事と思います。大人の風格、リーダーとしての資質、包容力豊かといった人格が、着実な「会」の発展へと導きました。「会」の最高意思決定機関である「幹事会」では、様々な激論が実に真剣に交わされてきました。激しいやり取りはあっても、わだかまりを残さず、いつしか参加者にやる気を起こさせ、それぞれの「力」が引き出されてきているように感じます。温かい心と思いやりが、根底にあるからなのであろうと推測しています。

若き頃「伊勢湾台風」という強烈な自然災害と直接向き合われた体験があり、自然の持つ恐るべき脅威を知り、一方でその素晴らしさを知ることから「自然の恵みの有難さに感謝」と言う概念を持たれたのであろうと思っています。自然環境問題への並々ならぬ関心をお持ちで、かねてより甚大な自然災害を憂い、活動の原点としておられるように思っています。社会貢献事業への方向づけは、「会」の新しい展開を呼び込む形となり、自然＝森林＝緑＝里山へと進ん

でています。「ならやま里山林整備」への誘いは、大きな決断であったと思います。

田畑の復活、無農薬・有機栽培を基本とする事、園芸種の持ち込みや他地域からの生物の搬入をしない等の原則は、今も大きなバックボーンとなっています。ご自身は「ナスクラブ」での無農薬・有機栽培を实践、数年の試行錯誤の後、栽培技術を完成させ、見事な成果を上げておられます。さらに「トマト栽培」への挑戦、果樹園への支援と意欲的な日常が続いています。一方「歴史文化クラブ」での活躍は、記紀1300年を大きなテーマとして捉え、奈良県内や周辺地区への探訪へと多くの同好の士を集め、会員の心をとらえて離しません。あくなき探究心の下定着しています。

俳句は、リタイヤ後に嗜むようになられたと聞いています。季題は俳句の重大要素ですが、その数多い季語の知識を吸収しつつ、若さと頭脳のリフレッシュがなされているのであろうと推測しています。その情熱の源泉は、シニア自然大学校(大阪)における児童エコ俳句、数万句の応募の中の宝探し、優秀作品を見出すという気の遠くなるような作業を、毎年続けておられる事にあるのでしょうか。

日々何かと忙しくしておられます。幸い健康には恵まれておられますが、ご自愛くださって、今後もさらなるご指導くださる事を願っています。(阿部 和生)



(佐保川堰堤での花見会にて・中央)



◆12月26日(木) 曇り一時小雨 55名

昨年最後の活動日で、午後は雨との予報につき、活動は11時に終え、正月準備に入った。

ベースキャンプの入り口には大きな門松が飾られた。

里山Gは、カシナガ被害木の伐採を継続実施。農園Gは、現存の肥料置き場に四阿屋が建てられる予定なので、場所の移転を実施。景観Gは、JR線路脇の水路の落ち葉の清掃を手がけたが、溜まっている落ち葉量が多くて完了できず、残りは次回の活動とした。

ならやま池の本年最後の水生生物調査、寒くなったとはいえ、まだザリガニ、エビ、マツモムシなどは元気。ハマユウ・皇帝ダリアなど寒さに弱い花の霜囲いを完了。

お昼には男料理教室メンバーによりサンマ寿司、アジの干物、味噌汁が準備され、その上に会員からの茶粥の差し入れもあり、皆さん腹一杯となった。余興として、桜島ダイコンの重量あてクイズがあり、見事的中させた方がいた。

工作名人たちによって干支の竹細工の材料が調えられ、午後多くのメンバーが製作に取り組み、持ち帰り用のミニ門松も作られて正月準備が完了。



◆1月9日(木) 曇り 61名+2名

本年最初の活動で、天気あまりよくなかつ

たので、作業は午前中でお終り。幸か不幸か活動終了直後激しい雨となった。

里山Gは昨年の継続でカシナガ被害木の伐採。農園Gはエンドウ類の支柱づくり。景観Gは昨年からの宿題となっていたJR線路脇の水たまりの落ち葉の引き上げ作業。水路から中段へ、中段から上の段へ、さらに落ち葉置き場へと連続作業で大掛かりな作業となった。池乾し中のタナゴ池では溜まった水の排水作業を実施。



11時前から餅つきを開始し、黒米など4升につき、皆さんきなこ餅、おろし餅など4個前後を食べ満腹。そのうえ女性会員が朝からベースキャンプ周辺を駆け巡り、春の七草を集めて、七草粥が振舞われた。お酒の方は形ばかりでほんの少々。

余興として福袋が準備され、抽選で干支の竹細工、野菜、イチゴ・バナナなどがお土産として提供された。

◆1月16日(木) 晴れ 57名+1名

里山Gはカシナガ被害木の伐採を全て終了、しいたけほだ木の玉切り。農園Gはエンドウ類の支え用の網張り。景観Gは竹林の整備、ビオトープ花壇と皇帝ダリア花壇の囲いづくり。

谷道側のしいたけ栽培場で盗難の形跡あり、ロープで栽培場を明示。会員から珍しい物(イノシシ肉とダイコンの煮物)が提供され、美味しくいただく。(木村 裕)

ならやま 花だより

吉村さつき

1月16日(木)、寒いが続いています。道路脇にシャシャンボの黒紫とソヨゴの赤い実が並んでいます。彩どりの少ない時期なので嬉しくなってしまいます。シャシャンボの実を口に含むと甘酸っぱい味がしました。

寒さをこらえるようにヒメオドリコソウが花をつけています。明治時代中期に帰化したシソ科の植物で、四角い茎には短い毛を持ち根元で枝分かれます。葉には鈍い鋸歯があり、上部は暗紫色で、卵形で対生しています。網目状で全体にしわがあるように見え、揉むと悪臭がします。花は先端の葉の脇に小さな唇形をした淡い紅紫色の花を沢山つけます。上から見ると放射状に並んでいます。可愛い花は笠をかぶった踊り子を思わせます。

オドリコソウと同種ですが、背丈、葉、花の大きさが半分以下で小さいためにヒメオドリコソウと名付けられました。姫は小さいものを指します。



【草花】 ヒメオドリコソウ、ハコベ、オオイヌノフグリ、ホトケノザ

【木の蕾】 ミツマタ、ツバキ、ヒサカキ、クロモジ、ジンチョウゲ、アセビ

【木の実】 マンリョウ、ソヨゴ、ヤブコウジ、ナンテン、シャシャンボ、ヒサカキ、クチナシ

ペタキン 日記 21

羽尻 嵩

12月10日、近大のタナゴ池担当の堀田君と今後のペタキン、タガイ、ヨシノボリの育種について打ち合わせをした。

ならやま池には、すでにペタキンの第2世代がいることが確認されているので、新たにペタキンは放流しないが、タガイとヨシノボリは放流してはどうかとの意見も伝えた。(その後、この提案は北川先生も了承された)

12月12日と1月9日にタナゴ池の改修作業を行った。両日とも寒い中、10数名の方が池の水抜きと底を深く掘る作業に参加された。泥だらけになりながらバケツに入れた泥土を手渡しリレーで運ぶ。両日とも作業は1時間半ぐらいで終了。これで下段・上段共に深みが広がり、池の生物、特にペタキンにとってより良い環境が整った。



ペタキン育種で一番難しいのは、タガイの増殖です。これまでタガイ育種のプランターは2つ置き、タガイを2グループに分けてきました。しかし、今年はタガイの増殖の環境

向上を考えて1つにすることにしました。また、プランターにいれるのは真砂土だけだったのを、落葉や、山土なども砂に混ぜて入れることにしました。

その他、プランター、池の一部、水路にクワイを導入するというのも、タガイの増殖に向けての試みの1つです。ご理解ください。

寒中に目にする 昆虫

菊川年明

ならやま パトロール報告

木村宥子

暦の上では2月の大部分はもう寒中ではありませんが、実際には寒の最中です。しかし、陽光はかなり春に近づいていますので、風のない穏やかな晴天の日には春を待ちかねている成虫越冬の昆虫が日光浴に現れることがあります。

チョウでは、ルリタテハ、キタテハ、テングチョウ、ムラサキシジミ(下の写真)、などが日向ぼっこをしているのを見ることがあります。この時期は太陽熱を全身に浴びるために翅を全開しています。ムラサキシジミなどは、暖かい時期にはたいていは翅を閉じて止まり、地味な褐色の面しか見せませんから、翅表の金属光沢に輝く紫色の面を目にすると、その美しさに眼福をさえ感じます。

あまり目立つ存在ではありませんが、草むらの下にナナホシテントウやツチイナゴ(トノサマバッタに似たバッタ)、ときにはキリギリス類のクビキリギスを目にすることもあります。

オツネトンボ、ホソミオツネトンボというイトトンボの仲間のトンボがならやまにいます。「オツネン」とは「越冬」のことで、越冬を意味します。この両種は、冬期は林内にいます。林の中は風が当たらず、冷氣もあまり厳しくないからかもしれません。2月の林内を飛んでいるのを何度か見ています。ホソミオツネトンボは春にビオトープ池でよく目にし、産卵の光景も見ているのでここで繁殖していると思われますが、オツネトンボの方は畑の付近では見えますが、ビオトープ池では確認できていません。

昆虫ならずとも春の訪れが待たれます。



冬のならやまは、とても静かで魅力的です。枯葉といっても明るくどこか色っぽい薄茶の落ち葉があたりを覆っています。枯葉茶とはこのような色を云うのでしょうか。しかし、冬のならやまにもいくつかの問題があります。

葉が落ちて弱くなった樹同士がお互いを支えられなくなったのか、自然倒木が時々見られます。道を横断するように倒れていることもあり、注意せねばなりません。木の梢には枯れ枝がひっかかっており落ちてくる可能性もありますので、こちらも注意が必要です。

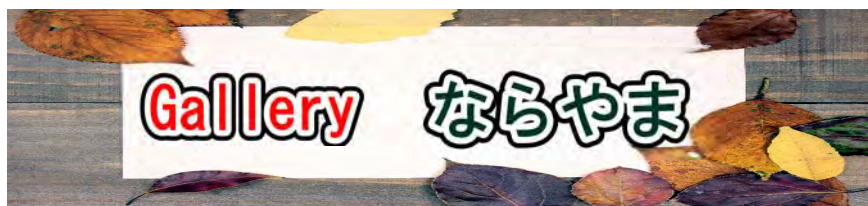


もう一つ大きな問題があります。盗難です。今までも花や肥料、椎茸などの作物が持って行かれたということがありましたが、最近はかなり山の中にまでおよ

び、昨年末に見つけたアカミカラタチバナ(百両)とシロミカラタチバナのペアのうち、アカミカラタチバナがあつという間に無くなってしまいました。ご丁寧に囲いにしていた竹棒やビニールひもも持って行ったようです。(囲いをしておいたのが良くなかったのかもしれませんが、これがないと後から確認するのが困難だったり、うっかり踏んでしまったりということもあります。)

コクランも数が減っているように思われる所もあります。みんなが楽しみつつ個体も成長するためにはどうしたらいいのか、知恵を貸していただきたいと思っています。

そうそう、佐保自然の森ではロウバイが咲き始め、かぐわしい匂いを漂わせています。

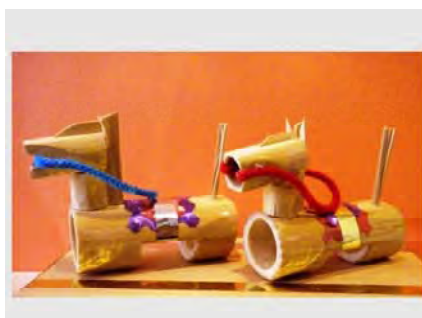


平成26年：西暦2014年 干支：甲午（きのえ うま）に因み

大澤教男さんのクラフト **午シリーズ** としました。



▲ 親子馬



▲ 夫婦馬



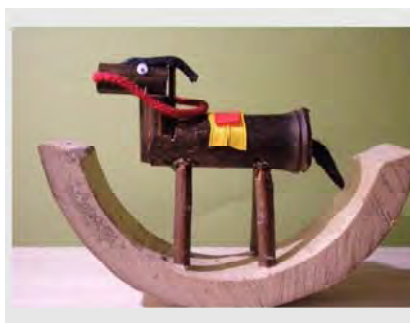
▲ 親子三代



▲ 竹馬



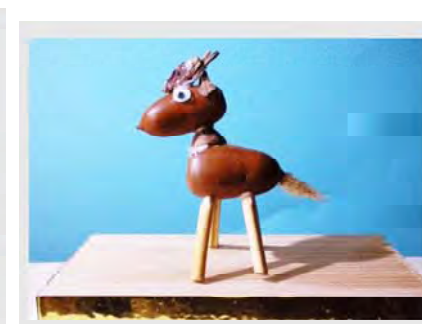
▲ 午



▲ 黒馬



▲ 木馬



▲ ドングリ馬



▲ 夜明け馬

新春初出式

里山は餅搗く音に賑はへり

1月9日(木) 今年の新春初出式を行いました。天気は曇りで、一段落した昼過ぎに通り雨が降りました。ならやまのメンバー約60名とビジター4名の参加を得て盛大に行うことができました。

先ず藤田会長より、「今年はグリーンギフトプロジェクトの取組などで忙しくなりそうであり、皆様のご協力とご支援をお願いします。」との新年の挨拶がありました。

10時過ぎから餅つきを開始。白米・赤米・黒米の三色の餅を4升と、どや餅2升を老若男女入れ替わり立ち替わりで搗き、きな粉餅とおろし餅を作りました。また、ならやま産ナズナなど、正しく地産の春の七草粥を大鍋満杯に炊きあげました。

全ての準備が整ったのを見計らって、手作り竹製猪口で阿部顧問の乾杯の発声で新春初出式が始まり、3色の餅と七草粥を美味しく頂きました。去年は、4升のお餅でしたが、2升増やして正解でした。「美味しい美味しい」の声があちこちで聞かれ、瞬く間に完食。シニア世代の食欲に度肝を抜かれた思いでした。また、鈴木幹事さんから、新春福袋で野菜の詰め合わせ、奈良学クイズの景品など皆様に振る舞い、また佐保川自治会長さんからミカンの差し入れもあり楽しい1日でした。今回も女性の皆様さんに大変お世話になり有難うございました。

今年も忙しい年になりますが皆様健康に気を付けて頑張ってください。(富井忠雄)



奈良学クイズ



【問】左の写真は、奈良のある寺院の「西北大門」とも呼称される門の石階段の部分写真です。最上段、基壇の外縁部の葛石(かずらいし)の上縁

面に、南北に一直列、不規則に大小10箇所くらいの丸い穴が並んでいます。、屋根の軒から落ちる雨垂れが穿った穴ではありません。軒先はその石より更に外側1.5mのところにあり、地面のその位置には「雨落溝」が設けられています。この穴の名称をお答えください。

【応募方法】 メール

FAX



「校庭自然観察会」この1年

今年度の出前教室は、5月28日、育英小学校1・2年生の「校庭の観察会」で、スタートしました。

授業としての観察会となったこの学校の先生方は、子ども達に自然に関心と親しみを持つよう、通学途中の体験を朝の時間に発表させたり、小動物を教室に飼ったり、色々工夫をしていらっしゃいます。

私たちには、自然あそびを体験させてほしいとの要望を頂きました。

まだ、入学後間もない1年生でしたが、ヤエムグラでワッペンを作ったり、タンポポの笛を鳴らしたり、アオキの葉っぱに字を書くことを楽しんでもらいました。毎年、好評のカタバミの10円玉磨きは、教室でゆっくり時間をかけて、「魔法の葉っぱカタバミ」の3つの不思議の



観察と体験を行いました。ピカピカに磨かれた10円玉を持ち帰って、お家の方とどんな会話がはずんだか想像するだけで、

楽しくなりました。

2年生は、カエデのプロペラ飛ばしや、ミラーウォークを楽しみ、ちょっと難しいカラスノエンドウの笛に挑戦しました。鞘の中の豆とその周りの白い部分を丁寧に取り除いて笛を作ります。笛ができて、音を出すのはなかなか難しく、全員が音を出す事はできず、あとは、先生にフォローをお願いして、観察会を終えました。

その後の観察会は、佐保台小（2回）、月ヶ瀬小、鳥見小、富雄第3小、帯解小（2回）と続きました。いずれも放課後教室での観察会です。

放課後教室はその目的が放課後の居場所作りですので、当然、異年齢の子ども達の集団となります。

月ヶ瀬小学校は、異年齢の班編成でした。高学年の子どもが、低学年の子どもの面倒を見ながら行動する姿を微笑ましく感じました。ドングリの観察後にマテバシイの試食をしました。最初は「食べたくない」と言っていた子ども、他の子が「美味しい」と言って食べる様子に食べ始める場面もあり、子ども同士の影響の大きさを感じました。



佐保台小学校の2回目は、昆虫観察会でした。広い校庭を、虫取り網を持って駆けまわる子どもの嬉々とした様子に顔がほころんできます。最初は怖がっていた子どもも捕まえられるようになり、大人の役目は虫籠持ちです。チョウやバッタを捕まえた子の呼ぶ声に素早く反応しなければなりません。虫たちにとっては、とんでもない災難でしょうが、子ども達はしっかり自然と触れ合って、いろいろな昆虫との出会いを堪能したと思います。

今年度、自然教室チームの観察会で、約260名の子どもとの出会いがありました。

観察会の前には、下見や打ち合わせ、そして準備と忙しい思いをすることも多いのですが、観察会を終えたあとの子ども達の笑顔が、私達を喜ばせてくれます。

次年度もお願いしたいとの声をいただき、大変嬉しく思っていますが、続けるためには、スタッフの増員が必要です。興味のある方、一緒に楽しく活動をしませんか。

観察会を希望される学校の紹介も歓迎です。

(平岡 久美)

1月の自然観察会 「冬の奈良公園を訪ねる」

自然教室チーム だより ②

2月の自然観察会 「自然工作を楽しもう！」



1月21日池田信明さんのガイド

で奈良公園の自然観察会を行いました。ゲストの方2人を含めて13人が参加し、寒い冬をたくましく生きる植物の姿を観察しました。

池田さんが準備してくれた資料に基づいて約40種に及ぶ樹木や草を、ゆっくり、じっくり見て回りました。

こんな時期の奈良公園なんて魅力があるのだろうかという不安もありましたが、何の何のいろいろな発見があり、とても充実した一日でした。

この時期だからこそしっかり見られる3種類のヤドリギ、サメの歯のような枝のカラスザンショウ、赤い実を残したカマツカ・カナメモチ・ナナミノキ、我が物顔のフジなど奈良公園の冬の樹木がじっくり観察できました。



また、春を迎える準備を進めているアセビ・アオモジ・イヌガシやイヌシデ等を間近に眺め、頑張れよと声をかけたくなりました。

更に、とげだらけのサイカチ、タケがおなかをつらぬくムクロジ、樹皮部分だけになりながらたくましく生きているクスノキ、見事な大木のスギ・ケヤキ・クスノキ等に改めて奈良公園の豊かさを感じました。春や秋の季節に改めて来てみたいものだったことでした。

途中で雨（あられ）に降られたりもしましたが、参加者一同十分満足できる観察会でした。

（倉田 晃）

2月は趣を変えて自然工作を楽し

みます。参加は自然教室チームメンバーに限られません。全く自由です。自然観察に興味をお持ちの方は是非ご参加ください。

1. 日時：2月18日（火）13時～15時頃

2. 場所：奈良市ボランティアセンター

奈良市法蓮町1702-1

TEL： 0742-26-2270

3. 内容：「小学校でできる易しい自然工作」をいくつか作ります。

4. 持参物：ハサミ、小刀、ホッチキス、紙ヤスリ、マーカーペン、ハンドドリル、プライヤー、作業用の板、前掛け（あれば…で結構です。）

5. 担当：櫻木、倉田（0742-62-8460）



3月の自然観察会 「春のならやまを楽しむ」

3月は、ならやまパトロール班にお願いして、第2回目の自然観察会を行います。参加は自然教室チームメンバーに限られません。全く自由です。多数のみなさんのご参加をお待ちしています。

1. 日時：3月10日（月）10時～15時

2. 場所：ならやまベースキャンプ

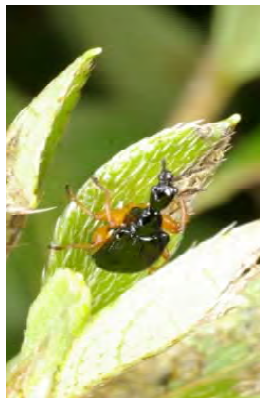
3. 案内：守口さん他パトロール班の皆さん

4. 担当：倉田、高本、平岡

やさしい昆虫講座④ 一国一城の主 木村 裕

前回シギゾウムシについて話しましたが、ゾウムシにはまだまだ沢山の仲間がいます。みんな食べ物は植物食で肉食はしませんので、神戸牛や松阪牛にも無縁です。成虫は新芽や柔らかい葉が主食ですが、幼虫は葉、果実、樹皮、茎、根など種類によって食べる物がまったく異なっています。

5～6月頃、野山に出かけるとクヌギやコナラの葉先に長さ1cm前後の円筒形をしたものがぶら下がっているのを見かけたことはありませんか。江戸時代の人、恋文や直訴など内緒の手紙（巻紙に記した）をそっと地面に落していったので、その形がこの巻紙に似ていることから落し文と



言われています。

虫の世界では、手紙ではなくてオトシブミと呼ばれるゾウムシの幼虫が住んでいるお宿兼お食事どころです。

成虫は1cmにも達しない小さな甲虫で、先端が象の鼻のように長く伸びてはいますが、他のゾウムシ類とは異なって頭ではなく胸の部分が長くなっています。手先？が非常に器用で、人間世界にあてはめるとダンスや引き出しを上手に作る指物師といったところです。一枚の葉のあちらこちらを歯で噛み切って、先端から順次折り畳んで丸い円筒に仕上げます。もちろん設計図や下図はありませんが、きちんと予定通りの物が出来上がります。

この作業は、見世物でもボランティアでもありません。彼女らにとっては大切な作業です。まずこの中心部に丸い卵を産み、それを傷つけないように包んでゆきます。卵から孵化した幼

虫は母親が苦勞して準備してくれた葉を少しずつ食べながら生長します。包みはしっかりと巻いてあり、外側は堅くなくても内部は湿り気あり、歯がたたなくなることはありません。この包み1個で幼虫が育つだけの食料が確保されています。

オトシブミの仲間にチョッキリゾウムシというのがいます。新芽の先端部に卵を産みこみ鋭い歯でその下をチョッキリ！と切り取ります。春先サルスベリ、バラ、ウバメガシの新芽が黒くなって枯れるのはこの虫のせいです。

変わり者は晩秋～早春に発生するヤサイゾウムシです。名前の通り、ハクサイやホウレンソウ、ミズナなどの葉の隙間に入り込み、親子水いらずに鍋を囲んでいます。それを知ら知らずに収穫してそのまま食卓まで運ばれると、レストランや給食のサラダの中に「虫がいた！」と騒がれる原因となっています。虫にとっては実に迷惑なことです。

ゾウムシであるにも関わらず、鼻の先が象になっていないの也有います。マメゾウムシと呼ばれ、もっぱら豆粒の中で幼虫が育ちます。お酒のあてにもなる炒ったソラマメの実に丸い穴があいていることがあります。これは、成虫がまだ畑で栽培されている豆莢内の豆粒に産卵し、孵化した幼虫が豆粒内で成長し、収穫され乾燥された頃に成虫となって穴をあけて飛び出したからで、子供には責任も罪もありません。





続・荘園と武家の勃興

歴史文化クラブ
川井 秀夫

桓武朝780年。東北の地で異民族 蝦夷の大反乱が起き、征夷大將軍坂上田村麻呂により鎮圧、戦争の無い時代が訪れる。大和朝廷は軍隊を縮小どころか全面廃止にしてしまう。

律令国家では治安維持の為、兵部省（今の自衛隊）刑部省（今の警察）の機構は残されたものの、兵士は一人も居ない有名無実化してゆきます。どうしてこの様になったのか。

それは前号で書いた宗教的な『穢れ』を貴族階層の人達が畏れ、身分の低い人に委ねていったからなのです。

都の治安は著しく悪化し、強盗が横行し、野盗の群れが跋扈し、惨憺たる状態になって行きます。朝廷は令外宮（りょうげのかん）として検非違使（けびいし）を設け、下級貴族に任命します。当時の日本は中央集権でしたから地方には国司を送ります。何故国家警察を作らなかったのか疑問が残りますが、もう一つの事情が絡みます。

これも前号でお話した『荘園』の問題です。貴族・寺社など「権門勢家」が土地の私物化を拡大した為、国に租税が入らず国庫は窮乏に瀕し、例えば藤原道長の子頼通の別荘（のちの平等院鳳凰堂）の豪華なものに対し、朝廷の持つ羅城門は、崩れたままホームレスが屯する様相を呈します。

平安京がこんな状態ですから地方はさらに乱れて行きます。

人々は自ら武器を持ち、武術を鍛え自衛手段を身につけていきます。これが武士の興りの始まりです。

庶民は、土地を「権門勢家」に形式的に寄付し、荘園として重税を避け、名目上土地の管理人として自己防衛して行きます。

しかし、下手をすると貴族に土地を奪われる不安が生じてきます。自警団として武士階層が力をつけていくのも必然であったのかも知れません。

平将門の乱を歴史は反乱と定義しますが、開拓民の独立運動であったと思います。

彼の失敗は自ら「新皇」と名乗り百官制度を作るのですが、朝廷の真似事に終り、失脚して終います。

のちの平清盛も、ここでは述べませんが同じ過ちを犯し、源平合戦の末滅亡してゆきます。

武士の土地所有権を認め、政治に参加させる事が出来たなら、歴史の変転は大きく変わったと思います。この後、鎌倉・室町・江戸と、幕府が権力を掌握し『朝幕並存』の時代が七百年続きますが、権力は一元化するのが普通なのに、朝廷は武士に滅ぼされる事なく、いま我々は天皇制と民主政治の中で平安な営みを享受し、日本人としての誇りを保持しています。

それにつけても、人間と言う動物は権力と闘争本能に明け暮れて、時代が動いてゆきます。

ふと私が侍の時代に生まれていたら、古代の農民であつたら、激動の戦国・幕末の時代だったら、と想念をめぐらしてみますが、私の偏見では昭和後期が一番だったろうと思っています。

現代は、狂騒的で毒々しい色彩感に満ちた世界、古い文化を軽視する風潮、軽くなっていく乾いた社会などと、つい愚痴が出てしまいます。

そうか自然界に身を委ねるのが一番か …。

賑わひて元の静謐五日かな

阿部和生

お正月はどこの実家にも一族郎党が集まる。迎えるお年寄りは大変だが嬉しい悲鳴が聞こえる。五日ともなれば嵐が去って静かな日常が始まる

七草を待ちてぞ子らも箸伸ばす

八木順一

七草粥。正月の馳走に飽食すると、食指が動く。子らは今か今かと待ちわびる。爺さんも婆さんも満足気。一家団欒の風景や良し。

傘寿まであれもこれもと思ふ初春

はる

古川祐司

高齢になるとお正月は嬉しくもあり嬉しくもなし。作者は傘寿を前にしてエンジン全開とみる。アクセルとブレーキの調和が肝心。傘寿には一杯やりますか。

年明けに祝ふ友垣蕎麦の縁

古川祐司

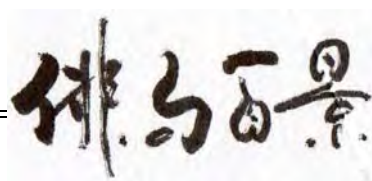
ソバクラブ新年会。老舗「かくれみの」に参集。この縁は蕎麦の様に長くありたいもの。みんなの笑顔が盃に揺れる。吉祥、吉祥。

柑橘の注連にさやかな色淡し

しめ

樋口善雄

しめ縄の橙は宇宙の象徴か。元朝の冷気に身の締まる思い。今年の平安を祈るや切。淡い光に春の色が染まる。



監修 川井秀夫

野仏のやうでありたや午の初春

西谷範子

野仏の表情を見ているとほっこりとした気分になる。今年も穏やかに、春風駘蕩でありたいと思う。作者のお人柄を垣間見る佳句。

睦まじく阿吽の息で餅を搗く

鈴木末一

里山 初出式。赤米・黒米の混合餅。搗き手と捌く人。正に阿吽の呼吸。杵の音が里の静寂に鈺して正月気分最高潮。

冬の柿残り福かと目白来る

鈴木末一

柿は秋が旬。この時季には渋柿も甘く化ける。小鳥たちには絶好の好餌となる。自然には無駄が無い。

手に熱き七草粥にどや餅に

川井秀夫

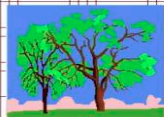
初出式。七草は万病を除くと言う。どや餅は奈良の方言。ふるいに落ちた小米を使う。めでためでたの野趣の味覚。美味、美味。裏方さんに感謝。

天馬行く礼者の集ふ 寿

いのちなが

川井秀夫

平城山の仕事人は天馬に及ばずとも地を駆ける駿馬ばかり。今年も安全第一。健全な一年を祈る。「寿」は俳句特有の韻律。礼者は新年の季語。



薄紅色の春風はどこからやって来る

谷川 萬太郎

貴方に逢える事だけをこの小さな胸は 夢見る日を指折り重ね密やかに待ち焦がれ
雲間より漏れ出る薄日窓辺に寄り添いて 人肌に似た雪原のウエーブが山里へと流る
故郷を偲ぶ愛の切なさが季節を越えて いつしか自然もその出で立ちを変えるのだ
過去の衣を脱ぎ捨て生まれ出る優美さは やがて見果てぬ豊かな自然へと育まれ
後進いかければなお遠ざかる春の光よ 深い嘆きの弦に耐える向う岸に新しい自然が

貴方がそっと教えてくれた春色の鼓動が 深い眠りから覚めた山や森にそっと忍びよる
時節に流され閑に静かに消ゆる冬景色よ 近づく春の踵も高らかに貴方を後にして
その身を運わせた冬の寂しさに堪えながら ときめき色の空よいつしか旅立つ身になれよと
暖かく大きな心と笑顔の君に逢いたくて 薄紅色の春風そよぐ匂う花に触れたくて
訪れる季節に鈴の音の弱き聞こえるかい 膨らむ胸抱きしめて仄々とした故郷の香り探して



「1月号完成」

竹本雅昭

用 紙：アッ痛た、あかんやないですか。
コピー機：何言ってるんですか痛いのは私の方
です。
用 紙：ほら、何枚かパーですよ。
コピー：私だって頑張ってるんや、今日も
何百枚でしょう。おまけにカラー
もあるんでしょ。頭がカッカして
る上に切替えもせんならんし、早
よ係の人呼んでんか。
用 紙：あ、来た来た、やれやれ安心です
わ。お疲れやろけど頑張ってたな。
コピー：分ってるよ、向こうで人々が手持
無沙汰で手口手口こっちを伺ってる
がな。
用 紙：ほな行くで、猛スピードで頼みませ。
コピー：あんたは何も考えでもえへけど、
私なんかこの一年どんだけ働いて
きたか。年末の今日もフル回転や
で、ほんまに。

用 紙：そうブツブツ言いなさんな。人々も
いつもの鋸や鋸に変えて、素手で
冊子作りに気合い入れたはんねん。
コピー：何度も言うけどな、もう年末やし
私もいいかげん休ませてもらいたい。
このしっとり濡れた高台から、大仏
殿の大屋根や興福寺の塔を眺めて、
穏やかな奈良の新年を迎えたいんや。
用 紙：すまんすまん。もう一息や、この
一年ご苦労さんやった。ほんまに
ありがとうありがとう。
コピー：いやーそんなに感謝されると、どう
も。多くの人々が茶封筒の届くのを
待っていて下さると思うと来年も精
を出さなと思うよ。



ならやま景観整備

活動予定日

2月	6 (木) 27 (木)	13 (木)	20 (木)
3月	6 (木) 27 (木)	13 (木)	20 (木)

- ◆ 場 所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林
[ならやま会館前道路（ならやま大通り）の南側に
広がる里山林地]
- ◆ 集 合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆ 終了予定：午後3時

アクセス

- ① JR平城山駅下車、東口から南へ徒歩10分
- ② 近鉄奈良駅・バス13番乗り場
8：27発、高の原行き（平日）
- ③ 近鉄高の原駅・バス1番乗り場
8：38発JR奈良駅行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」
で下車 徒歩7分



- ◆ 携行品など：弁当、飲み物、
軍手（お昼に豚汁の提供あります）
- ◆ 環境保護のため、お椀、箸、
コップなどは各自ご持参下さい。
- ◆ 連絡先：木村 裕



2月6日

- <里山Gr> 伐採済コナラの薪・焼却用玉切り
枝葉整理、燻蒸処理
- <農園Gr> 春作野菜畑整備、堆肥づくり
水路整備
- <景観Gr> B C.、彩の道草刈り、竹きり
寒肥、剪定
ならやま池の泥除去作業

2月13日

- <里山Gr> 伐採済コナラの薪・焼却用玉切り
枝葉整理、燻蒸処理
第五地区 通路整備および竹林整備
- <農園Gr> 春作野菜畑整備、堆肥づくり
水路整備
- <景観Gr> BC周辺整備、倉庫整備
山野草園整備
ならやま池整備



2月20日

- <里山Gr> 伐採済コナラの薪・焼却用玉切り
枝葉整理、燻蒸処理
第五地区 通路整備および竹林整備
シイタケイベントの準備
- <農園Gr> 春作野菜畑整備、堆肥づくり
苗床ビニールハウス製作
- <景観Gr> たんぼ池周辺整備
紫花菜間引き、施肥
ならやま池の入水
BC水路補強作業



2月27日

- <里山Gr> シイタケイベントの準備
- <農園Gr> 春作野菜畑整備、堆肥づくり
苗床ビニールハウス製作
- <景観Gr> ならやま会館前整備
草取り、桧扇水仙移植
BC水路補強作業





行 事 案 内



2月例会 探鳥会

今回は足湯を楽しむゆつくりコースです。

◆月 日：2月25日(火)

◆集合場所：近鉄富雄駅西口

◆集合時間：9時45分

(生駒からは40分着、西大寺からは42分着があります)

◆コース：富雄川右岸→追分本陣→矢田子供の森(昼食)→檜木峠→小瀬・足湯(歓喜の湯)→

南生駒15時頃



カモ・カワセミ・イソシギ、
運が良ければタカ類に逢えるかな

◆持 ち 物：双眼鏡(あれば)・弁当・飲み物・
手拭(足湯のため)・寒さ対策

◆担 当 者：勝田 均

小田 久美子

3月例会予告

3月の例会は歴史文化クラブとの共催で「古代の道・巨勢道とつらつら椿の里」を訪ねます。

万葉集に「巨勢山のつらつら椿つらつらに見つつ偲ばな巨勢の春野を」と歌われている巨勢の道は、古代の大和・吉野から紀水門(きのみなと)を結ぶ幹線道路、紀路の一部でした。ここを本拠とした巨勢氏は、6世紀全盛を誇り、巨勢山古墳群には700以上の古墳が集まっています。例会では、巨勢寺跡、つらつら椿の阿咩寺、蘇我蝦夷の墓という伝承の残る水泥池古墳、葛木御歳神社、船宿寺を巡り、やぶ椿が彩る自然を満喫しながら早春の巨勢道を歩きます。多数の皆様のご参加をお待ちします。

◆日 時：3月25日(火) 9時30分

◆集 合：近鉄吉野線 葛駅改札口

◆連絡先：古川祐司

『歴・文クラブ』新年に向けて

代表 川井秀夫

新年を迎え会員の皆様方、本年もよろしくお願い申し上げます。

本クラブも発足三年目を迎え、時代のヒーローたちが遺した旧跡を巡り、現代人の目で謎と真相を追いつけて参りました。今年も、昨年に続き『古代の渚を歩くⅡ』をキーワードとして、多彩な年間計画を策定し、細部については既にメールを通じご照覧いただいた事と存じます。

歴史学者E・Hカーの名言『歴史は現在と過去との対話である』を心に実践して来ましたが、高齢化が進む中で感動と思索を続け、心身の高揚、脳細胞の活性化、知識の培養など余生のよすがとして頑張りたいと念じております。

2020年はオリンピック イヤー。奇しくも日本書紀の編纂1300年になります。

本クラブも有志の方々のお力をお借りして更なる発展を目指して参ります。会員各位のご協力を切にお願い申し上げます。

新しく入会の方は、事務局 古川 祐司氏宛お申し込み下さい。



編輯子一ム・代表 鈴木末一